

国頭村佐手「国頭村マンゴー産地協議会佐手部会」

生産
部門

やんばるマンゴーと担い手育成のふるさとづくり (平成21年度認定)



佐手地区は、国頭村の中心地辺土名から北へ約6.5kmにある佐手集落を範囲とし海浜を見渡すことができる高台に位置し、農地開発事業により造成された地区である。

当初は、さとうきびを中心とした営農であったが、農業従事者の高齢化と社会情勢による若年層の域外への流出等による担い手農業者の不足が深刻な状況であった。そこで、平成8年に農業近代化施設を導入し、地域の土壌条件を生かしマンゴーを中心とした集約的農業を確立した。当初は、佐手区住民と農業生産法人(有)佐手農園を立ち上げ、その後、農業生産法人(有)サンヒルズ沖縄と改名し、大規模経営による安定的生産システムの構築と担い手の育成を図り、遊休農地4.9haの解消も図られた。平成19年度には、国頭村マンゴー産地協議会が設立され、生産者代表として協議会の運営委員となり国頭村におけるマンゴー生産・出荷に向けての栽培管理技術の普及、生産拡大と品質向上に努めている他、県内外からの研修生の受け入れを行い、担い手育成にも務めている。

また、年配者の多い地域のため、集落の美化作業には住民と一緒に参加し地域保全活動の役割を担うとともに、農繁期における地域の就業機会を創出し地域活性化に寄与している。

